

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1416号 令和7年1月15日号

令和七年 年頭所感……………大日本生産党 党首 森田 淳…………	1
韓国の政治混乱は他山の石……………本紙編集部…………	2
南海トラフだけではない脅威……………	2
苗字のルーツが明確な「鈴木さん」……………	3
読者投稿 残された能登 その後〈第4回〉……………	4
阪神大震災の負の遺産「神戸新長田再開発」……………	5
女子サッカー界のレジェンドは良識派……………	6
安楽死法案は宗教の危機……………	6

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円（年10回発行）
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
編集長／谷 田 透

謹賀新年

輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます
今年も倍旧のご指導とご交誼を宜しくお願い申し上げます
令和七年 元旦

年頭所感

大日本生産党 党首 森田 淳

明けましておめでとつございます。

昨年は、元旦から能登半島に地震が発生し大混乱の様相を呈した我が国でしたが、本年は、穏やかな気持ちで正月を過ごせたことに感謝いたします。

しかしながら、能登半島の復興は一年を過ぎてなお未だ進んでおらず、政府の対応には首をかしげるばかりである。

被災され避難を余儀なくされておられる皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、昨年の年頭所感を読み直しながら執筆しておりますが、世界情勢に関して云えば、ロシアの大統領選挙は規定路線で終えたものの、韓国総選挙ではやはり、少数与党の敗北により、政権運営が思うようになくなり、非常戒厳宣言を大統領が発するまでに至ってしまったのには驚かされた。

隣国の政治の窮状をともに報じることなく、盲目的に日韓友好だけのことさら進めたるマスメディアには辟易させられてしまっている。

事後の報道においても、原因や宣言に至る経緯など、どれも芯を食っていない報道ばかりで、世界情勢やアメリカの政権交代の影響を示唆する解説は一切見受けられない。

尹大統領が、不正選挙や上手くないかない政権運営に、しびれを切らし宣言を発してしまつたかのような解説ならば、マスメディアが本気で取材しているかさえ疑わしい。

私は、トランプ登場により、世界情勢の混乱が収まることを許容出来ない勢力が、裏で蠢いていた可能性は排除できないのではないかと考える。

六月に行われたEU議会議員選挙では、マスメディアが云うところの極右ポピュリスト政党、欧州の愛国者が第三勢力となった。

加盟国の得票状況も、フランスはルペン率いる「国民連合」がマクロン大統領の与党連合の二倍以上の得票数、ドイツもシヨルト首相の中道左派「社会民主党」が大きく議席を失い、中道右派「キリスト教民主同盟」、右派の「ドイツのための選択」に次ぐ過去最低の得票となった。

移民反対や保護貿易を訴える保守政党が、市場開放やことさら人権を声高に叫ぶ左翼政党やリベラル等、グローバリストの思惑で動く政党に勝利を収めた構図に変わった。各国議会に於いてもポルトガル、オランダ、ドイツ、フランス、オーストリア等、保守政党の躍進が相次いでいる。

令和七年、世界は長らく続いたグローバリストの支配から解放される端緒になる年になるのは間違いないであろう。

お隣、中共は政治的にも経済的にもトランプとどう対峙していくか、今後の国家運営に大きく影響を及ぼす一年になることは間違いないであろう。

又、外交だけに留まらず、国内の経済状況、統治に関しても現状維持を続けていける方策はなかなか見つからないのではないだろうか。翻って我が国であるが、支持率低迷でどうしようもなくなり、総裁選にも出馬できなかった岸田元首相であったが、ワンクッション置いての二期目を狙うために石破を陰で操り、高市首相誕生の芽を摘むことに成功した。石破、森山、村上、岩屋と媚中勢力に政権を支配され、保守派にももの言わせない現状は自民党の終わりの始まりを予見させられる。

唯一の同盟国アメリカの大統領選を見誤つた我が国政権は、EUの加盟国国民がNOを突きつけた移民政策に一周遅れで追従していき、絶対に通してはならない選択的夫婦別氏にま

でも手を付けようという有様だ。石破政権が岸田政権をより大きく左旋回させている状況にある今、自民党は保守政党と呼べない政党に成り下がってしまった。

まずは世界の潮流を見誤ることなく、中共に引きずり込まれない政権を確立することが急務である。

韓国の政治混乱は他山の石

本紙編集部

韓国政界が大混乱だ。大統領はレームダックなのは事実だが、国内左派、北朝鮮の犬、中共、ロシアなどの「アンチ日米」が総がかりで政権転覆を急いでいる。

急ぐ最大の理由は、^{イジエミン}李在明（共に民主党）が有罪判決を受けたら公民権停止になるからだ。が、一月末から二月前半には判決が出ると言われている。それまでに大統領を追い込んでおかねば、左派は瓦解すると見られている。

韓国はアメリカとの軍事同盟や安保条約を順守か破棄かで政権が変わる度に混乱するが、当のアメリカは、決める権利はアメリカにあるので、韓国には選択する権利は無いと明確に言っているそうだ。つまり、韓国の世論が混乱するなら、アメリカは強制的な措置も考えると言う意味になる。日本と韓国のハンドラーはパウエル（前



國務長官・CIA）だと言われる中で、共産主義者や破壊主義者の台頭は有り得ないと思われる。韓国を二つに割っても、血の雨が降っても、アメリカは韓国を赤い色に染めることは許さないだろう。

日本も実は同様で、アメリカが「やーめた」と言えば国内治安を一気に悪化させて共産主

そう言う人が多い気がする。

原始的な「力による安定」が共産主義者には最も有効だと先人は考えていたが、原始人にも現代人にも、原始的な力は強力な抑止力であることに変わりはない。

日本政府は今回の韓国政界の混乱を、他山の石として真面目に学ばねばならないことだけは確かだ。

南海トラフだけではない脅威

阪神大震災から三十年になるが、その後には東北大震災、熊本大震災、能登大震災など大地が鎮まる気配は感じられない。感じられないどころか、今度は南海トラフを中心とする南海地震、東南海地震、東海地震が連続または連動して発生する確率は三十年以内に七〇%を超えるなどと言いつつは覚悟を強えられる。

南海トラフがスロースリップを続けていると話題になっている時に、新たな脅威を政府の地震調査研究推進本部（政府地震本部）が発表した。それは「関西には、阪神大震災の割れ残り活断層など今にも動きそうな断層がある。大阪上町断層、六甲淡路断層、山崎断層などはM7・9を超える規模で動く」と言うのである。

既に動き始めている中央構造線の両端である和歌山県と宮崎県では、M4ぐらいの地震が頻発し、これが全部動けば四国山脈は大きくずれ動くことになる。東の剣山はユダヤの聖地であり、西の石鎚山は修験道の聖地である。四国山脈は三億年前に海底だった地盤が隆起して出来上がっているのです、山頂付近でも水が湧いている所が多い。この四国山脈の水が枯れるようなことがあれば、中央構造線大震災は近い。

政府地震本部は今になって「阪神大震災の時に解放された地震エネルギーは事前に想定していたよりも小さかったので七一kmの活断層全域は動いていない」と言い始めた。割れ残りがあると発表し、長期評価の発生確率を上げることになったのだ。割れ残りの六甲から箕面の断層が割れば、そこに連動する上町断層は西側がずれて、大阪市内は大阪湾沿いに大規模なずれが生じるとのこと。これらは「大都市直下」に当たるので、その被害は南海トラフが動くよりも大きくなることは確実だ。

長期評価の発生確率は、上町断層では三%



大震災が発生した。阪神大震災も、三十年から七十年ぐらいの近い将来に「発生するかもしれない」と言う程度で知られていた。これから考えれば、今回の政府地震本部の長期評価の見直しは、「いつ発生してもおかしくない」と言うことに修正されたことを意味している。

実は今回の政府地震本部の発表は、日本国内よりも世界が注目していることを知っておくべきだ。大震災の復興資金と事業予算で政府が傾く可能性と、友好国のハイエナ企業が復興事業を独占し、親日財閥が復興資金を貸し付けて利益を上げる想定をしているそうだが、こんな想定や予測は当たってほしくないものである。

苗字のルーツが明確な「鈴木さん」

日本で多い苗字は、鈴木、佐藤、阿部、高橋、田中、などと知られているが、その苗字のルーツが明確なものは少ないそうだ。

関西で代表的なルーツの一つに「鈴木」があるが、和歌山県海南市の「藤白神社（写真）」に鈴木の一族発祥の根拠地がある。「鈴木屋敷」と呼ばれる一族の総本部が神社の境内にあり、全国から一族の「鈴木さん」たちがお詣りにやって来るそうだ。



平安時代に熊野信仰が盛んとなり、稲穂に鈴なりの米を作れる優秀な一族の者が藤白神社を拠点としていたが、熊野信仰を広める仕事を命じられ「鈴木」と名乗るように言われたそうである。熊野信仰の最も古い公式宣伝マンが「鈴木さん」であ

る。

和歌山県海南市では、「全国の鈴木さん、海南市に移住しませんか」と言うキャンペーンを行っているが、移住する「鈴木さん」がどれぐらいいるのかは不明である。

関東に行けば、栃木県佐野市に「佐藤さん」の明確なルーツがあるそうだが、詳細については分からない。

日本には二十万以上の苗字があるそうだが、特殊な苗字の起源は分かっている場合が多いし、ポピュラー苗字のルーツも面白い話である。日本人の大半が明治十年以降に苗字を付け始めたことを考えれば、それ以前に苗字を持っていた家系だけが面白ければ良い話ではないかと斜な気持ちになる人が居るかもしれない。

震災より一年が経った。今回は私の里帰りを紹介したい。輪島市門前町と言えば、テレビでレンジャー救出した孤立集落をご記憶の方が居られるかもしれない。

幼少より冬休みに入れば私は里帰りする。年末から年明けにかけての時間が震災と同時期であるから、過去と現在の回顧と言った所である。まずは時間のズレを話したい。現在は皆新暦で動くが里では旧暦である。ここで盆暮れ正月の帰省かと思われるだろうが、少し違う。里では大忙しの真っ最中である為、孫といえど家業の手伝いに勤しむ事になる。

主力は岩海苔である。皆さんご存知の浅草海苔や有明海苔と混同しやすいが別で、シベリアからのウツプルイ種である。よく冬の日本海の荒波と覚えがある方もいると思うが、大まかに言えば、激しい寒さと海流により海苔田んぼに胞子がつき海苔になり採集し板海苔に仕上げるのである。

私の里は百姓は殆どおらず半漁半農の自給自足に近いと見てもらえばよい。漁と言っても地形の関係で秋の味覚代表である底引き漁は出来ない。砂地でないから網が引つかかり転覆するからである。幼少の頃はカジキ漁が主力であった。子どもながらカジキは大きいなと思っていたが、他所では遠洋漁業位しかカジキ漁がわからない為、近海漁は馴染みが薄かったのであろう。

大物漁しかやらず、古くはクジラ討ちもやっていた。お宮のお堂にクジラの肋骨が御神木として置いてあるが、家内はマンガで見たマンモスの牙みたいだ：と驚いていたものである。当時はまだクジラ討ちの猟具も揃っていて、子どもなりに練習したものである。また赤海亀が立ち寄る所でもある。たまたま網にかかった赤海亀の甲羅を掃除し、御神酒一升を呑んで貰い、もてなした上また海に戻すのである。私が代表で亀の甲羅掃除と一升呑んで貰う役回りになったのは貴重な経験だったと思う。七五三の千歳飴の袋に亀が描いてあるが、尻尾の様なものは実は毛で無く海藻で、亀に着的いた藻が伸びてそうなるのである。藤壺などもついており、全て一式綺麗に体を洗

い一杯ひっかけて帰って頂く訳である。

クジラにせよ亀にせよ人に恵みをもたらす以上、神であるから無下にはできない。亀の体洗いはサルベージ業のダイバーが船底を掃除するのと同じで、海藻が付着すれば抵抗が強くなるから、私が体洗いた亀は帰り際さぞ身が軽かったに違いない。酔っているのか、ふらふらと湾内を三周して海へ戻っていったものだ。身に余る大役だったが、おそらく一生に一度の得難い思い出である。

春夏秋冬、四季折々の里山里海の姿は、化粧直しのごとく喜怒哀楽を魅せてくれる。

今回、冒頭は冬の顔である。歯噛みしながら納屋で祖父と共に薪ストーブを焚



いた小屋で脱水と熱中症に気をつけつつ海苔干しに励む。一時間に二、三回納屋の外に出て夜風に体を晒すが、余りの波風の寒さですぐ納屋に戻る。祖父は静かに酒を舐めながらじっとしている。納屋の熱さで冷酒もぬる爛になり、チエーサー代わりに味噌と梅干しと水を摂っている。私は二合で参ってしまった。サウナの様にはいかない。何とか夜明けまでと気張るが早々と朦朧としながらうずくまっている為、時がたつのが長い。寝る事ができないのが辛い。祖父の一言「今日はここまで」で終了である。

納屋から母屋の五右衛門風呂にまっしぐら：もちろん真水である。ざばんと浸かり目が醒める、沸かし湯を三杯かぶり体を拭き寝転がるや否や眠ってしまう。目が明けば祖母の朝餉が待っている。こんな調子の冬であったが奇しくも昨年は地震。私の里は灯台があり、全国の主要灯台は里の者が殆ど手がけた。海外では上海と大連。いずれも古い話だが私の誇りである。灯台守りの唄をご存じだろう、原曲はスコットランド民謡なのだが私には懐かしい子守唄である。



さて現在の状況は、復旧進まず今回の寒波で除雪もままならず、豪雨及び度重なる余震。

仮設に入っても、元々空間の広いところで暮らして来た人たちにしてみれば、四畳半暮らしは厳しい。今現在インフルエンザが流行っているが、私から見れば地震疲れである。去年の夏など私の近くの総合病院では一日平均二百人位、熱中症や脱水で搬送されていたと掃除婦や介護士から聞かされた。医療関係者も被災者や避難者が多く機能しないのだが、この辺りは報道に上がらないのである。現状を伝えようにも憚られるのである。政府や行政に頭を垂れているしかないのである。

私の里は地震を二回経験した事になるが、対応が同じであった。ボランティアも助かるのだが観光気分の人も多く、また変に気を使わなければならない為、かえって避難所疲れに拍車がかかるのだ。私の里など前々回の地震で本当に気が晴れたのは里に帰れた時であ

る。皆一様に晴れ晴れとしていた記憶がある。今回も同じであろう。

未曾有の地震と言うが歴史をみれば戦国時代に白川郷地震が発生、時は戦乱の世、天の荒れ地の荒れ、人の荒れは私は偶然とは思わない。現在も同じである。更に一考、能登の外浦の地形は北欧のフィヨルドに近く、東日本のリアスとも違うが両所とも震災があった。なぜ侵食など考えず過去から学ばないのか理解に苦しむし、能登の震災は発生 of 直接死より関連死が多いのである。長丁場がこたえた事は一目瞭然、私の幼少の思い出は現であったのであろう、世に永遠は無い事をまざまざと感じる。復興のスローガンは表裏一体の合わせ鏡である、何が正しく間違いないのか解らないものである。

阪神大震災の負の遺産「神戸新長田再開発」

阪神大震災では「ボランティア元年」と言う言葉が生まれたほど、全国民が無償の奉仕活動を恥ずかしいと思わずに取り組む機運が爆発した。特に被害の激しかった長田区では、全国からと言っても過言ではないほど大勢のボランティアが連日駆け付けた。今から三十年前の光景である。

「復旧」を望んでいた地元住民と、「再開発」を望んだ自治体・政治家・業者の連合が対立していたが、非常時には住民が強くて、少し落ち着けば「金も無い仕事も無い」住民は弱いものである。長いものに巻かれて、再開発は既成事実となった。

長田区の再開発は一九九ヘクタールに二、二七七億円を投じる日本最大の規模で、昨年十月になってやっと完了したが、三二六億円の赤字を計上している。神戸市は、震災前に



比較して人口は四〇%増加していると言うが、実際には再開発のマンションと市営住宅に住んでいるだけと言う有様で、地元商店街が潤うことも無く、地元コミュニティに参加したりボランティア活動に参加したりする新住民も無く、再開発関係者たちだけが自己肯定の言い訳を探している始末である。復旧

とは、割れた壺が元通りにならないのと同じで、ほぼ不可能に近い話なのだが、復興となれば話が違ふ。復興とは、以前と同様あるいはそれ以上に発展することである。再開発とは、以前の町を取り戻すことではなく、新しい街を作ることなのだ。ある面、非情にならなければ復興事業は出来ないのだが、中途半端で付度や折衷で再開発を復興につなげようとするのは難しい事なのだ。

再開発ビルは、完成当初から一度もテナントが入っていない所も多く、神戸市や事業主体の町づくり会社では「保留床を時価売却して、当初売却価格より二三%安くする」と言い始めた。元の商店主や地主は二三%も高い価格で買わされているのだから、その差額はどうかなのか。再開発ビルは、長田区の新長田南地区に二十二棟でトップ、二番目の灘区六甲道には八棟だから、如何に新長田が大規模か分かる。これらの区分では、簿価の総額が五十五億円なのに対して、時価の総額は四十二億円にしかない。全ての床の入居率は九六・七%あると神戸市は言うが、多くの人が眉に唾をつけるだろう。

ある食肉業者に聞いたのだが、「五年間だけ空きテナントを借りて欲しい。半額の家賃で飲食店に又貸しして欲しい」とデタラメとも思える依頼を受けたと言うが、被災地に少しでも手助けになればと言う義侠心から引き

女子サッカー界のレジェンドは良識派

女子サッカーで世界を制した「なでしこジャパン」元主将の澤穂希さんが、兵庫県人権啓発協会のインタビュに答えて、「女性が活躍することについて」の考えを話した。

澤さんは、どんな仕事でも男女の区別なく「その仕事が出来る人」が一生懸命に働くことが世の中の基本だと話し、最初から「女性の比率を〇〇%にする」とか「女性管理職は〇人」などと決めてかかる胡散臭さを婉曲に批判した。



え方が出来る。

日本の政治家も経済団体も、世界の潮流だと誤魔化しを言って「女子比率」に熱心だが、ジェンダーに関係なく「性別不問」と言うならば、女子比率を言うこと自体が差別だと気づくべきなのだが、どうも「適材適所」と言う詐欺的な宣伝が一般的になっている世の中では、それを指摘すること自体が憚られるようだ。

澤さんの基本は、自分自身が子供のころに「女のくせにサッカーしている」と悪口を言われ続けていたことが発奮する原動力だったそう。男でも女でも、サッカーが上手ければ関係ないと開き直れば、澤さんのような考

安楽死法案は宗教の危機

イギリスで安楽死法案に七〇%以上の人が賛成したと話題になっているが、これだけではなく、スペインでも同様に安楽死が合法化される。どちらも「国教」を持つ国であり、キリスト教はカトリックもプロテスタントも「自殺」は神の倫理に背くことであり反対している立場だと言うことは厳然たる事実だ。それなのに…。

カナダも安楽死は合法化されているが、五年間で四万人が利用した。利用というのは、カナダのケベック州の裁判所が「安楽死は医療サービスの一環であり、個人の選択である」と判決を出していることだ。本人が実行するか、本人の意思を確認して医師が行うかによって安楽死は合法化されており、そこには理由の如何を問わず、「尊厳ある死を選択する権利は個人にある」



とされ、神には決定権は無いとしていたことだ。宗教倫理を云々する人にとつては、「神は死んだ」と言う宗教改革以来の大事件であろう。

アジアでは、日本を含めて家族主義が定着しているの「親の面倒は子供が」と言う気風が根強い。そこで、家族主義を破壊することで安楽死法案を出しやすくする政治的な「反宗教戦略」が見えてこないだろうか。家族形態を欧米に倣う傾向が強まっている昨今、個人主義を突き詰めれば「反宗教」に行きつくことを覚悟するべきだ。宗教

とは、神とは、と真面目に考える人に言おう。「神は死んだ、お前たちが寄ってたかって殺したのだ」。